



生化学検査サービス内容

検査項目	基準値 (単位)	説明
ALT (GPT)	8~49 (IU/L) (※1)	肝臓に最も多く含まれる酵素です。肝細胞が破壊されると血液中に流れ出すので、急性肝炎で最も多く上昇し、慢性肝炎や脂肪肝(肥満)などでも上昇します。激しい運動の後に一過性の上昇がみられることがあります。
γ-GTP	9~68 (IU/L)	肝、胆道、膵、腎などに多く含まれる酵素です。上昇する疾患は閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などです。病気がなくても長期飲酒者では上昇することが多く、1カ月くらい禁酒するとある程度正常化します。
TP 総蛋白	6.6~8.2 (g/dL)	血清中には80種類以上の蛋白が含まれ、種々の機能を持ち、生命維持に大きな役割を果たします。その総量を総蛋白として測定しています。
ALB アルブミン	4.0~5.1 (g/dL)	血清蛋白の50%以上を占めるアルブミンは、病気などで栄養が悪くなると減少するため、健康診断のスクリーニングとして大きな意味があります。
A/G アルブミン対 グロブリン比	1.3~2.1	血清蛋白はアルブミン (A) とグロブリン (G) に分けられ、その比率は健康な人では一定の範囲にありますが、病気によってはその比率が変化(主として減少)してきます。
CHOL コレステロール	140~259 (mg/dL)	血清脂質の一つで、一般に脂肪の多い食事を続けていると上昇します。また肝臓などで作られ、肝、胆道、腎、甲状腺の病気ではその値が上下することがあります。血清コレステロールが多くなると動脈硬化を起こしやすいとされています。
GA グリコアルブミン	16.5%未満	糖尿病の検査の一つです。過去2週間の血糖値が低い状態が続いていると低下し、高い状態が続いていると上昇します。糖尿病では標準値より上昇します。標準値範囲内でも、15.6%以上の場合は注意が必要です。

(※1) IU : 国際単位



血球計数検査サービス内容

検査項目	基準値 (単位)	説明
RBC (赤血球数)	男性 : 418万~560万 (/μL) (※1) 女性 : 384万~504万 (/μL)	赤血球は血液の主な細胞成分で、酸素を肺から各組織に運ぶ働きを持っています。
Hb (ヘモグロビン量)	男性 : 12.7~17.0 (g/dL) 女性 : 11.0~14.8 (g/dL)	血液の赤い色は赤血球に含まれるヘモグロビン(色素)によるもので、赤血球の働きを中心となっています。
Ht (ヘマトクリット量)	男性 : 38.8~50.0 (%) 女性 : 34.6~44.6 (%)	ヘマトクリット値は、一定の血液量に対する赤血球の割合(容積)をパーセントで表したものです。
MCV (平均赤血球容積)	83.0~99.5 (fL) (※2)	赤血球1個の平均的容積、すなわち赤血球の大きさの指標となるもので、赤血球数とヘマトクリット値から算出したものです。
MCH (平均赤血球ヘモグロビン量)	26.8~33.5 (pg) (※3)	赤血球1個に含まれるヘモグロビン量を平均的に表したもので、赤血球数とヘモグロビン量から算出したものです。
MCHC (平均赤血球ヘモグロビン濃度)	31.7~35.2 (%)	赤血球の一定容積に対するヘモグロビン量の比をパーセントで表したもので、ヘモグロビン量とヘマトクリット値から算出したものです。
WBC (白血球数)	3800~8900 (/μL)	白血球は細菌などを貪食し、免疫情報を伝達し、さらに免疫能を発現して生体防御にかかわっています。細菌感染症があると一般に白血球数は増加しますが、ウイルス感染症の場合はかえって減少することもあります。
PLT (血小板数)	17万~36.5万 (/μL)	血小板は出血を止めるための重要な働きを持ち、この値が極端に減少すると出血を起こしやすくなります。

(※1) $\mu\text{L} = 1\text{L} \times 10^{-6}$ (※2) $\text{fL} = 1\text{L} \times 10^{-15}$ (※3) $\text{pg} = 1\text{g} \times 10^{-12}$